

CIGS 榎田健児氏セミナー

「アルゴリズム革命の衝撃: 人工知能(AI)とシリコンバレーがもたらす次なるディスラプション」

日 時 2016年9月21日(水) 13:00 - 15:00

会 場 新丸ビルコンファレンススクエア Room 901
(東京都千代田区丸の内 1-5-1 新丸ビル 9階)

講 師 榎田 健児
(米国スタンフォード大学アジア太平洋研究所リサーチアソシエイト、
キャノングローバル戦略研究所 International Research Fellow)

モデレーター 栗原 潤 (キャノングローバル戦略研究所 研究主幹)

言 語 日本語

セミナー概要

シリコンバレーで世界をディスラプトするイノベーションが加速している。豊富になり続けるコンピューティングリソースによる人間の活動の自動化と、その途中経過にあるハイブリッド化は、あらゆる業界に及びつつある。これは2016年の途中から、人工知能(AI)の驚くべき進化が表面化したことで想像以上に早く加速している。日本の国際競争力の柱である製造業にもAIの波が押し寄せているが、その本質的な議論は人間の活動を代替する(AI)の他に、人間の能力を補完するIntelligence Augmentation (IA)も考慮しないと進まない。素人でも熟練の仕事ができるようになるのがIAで、今までの「AIはローエンドの仕事を奪う」という着眼点よりも複雑な現実が急速に到来しつつある。今回はシリコンバレーから見るドイツのインダストリー4.0の取り組みも紹介し、シリコンバレーを日本がどのように活用すべきなのか、そして日本の今後のチャンスを模索しながら、様々な業界に及ぶ荒波の本質を紹介する。

プログラム

13:00-13:10	趣旨説明 栗原 潤
13:10-14:45	講 演 「アルゴリズム革命の衝撃: 人工知能(AI)とシリコンバレーがもたらす次なるディスラプション」 榎田 健児
14:45-15:00	質疑応答と討論 モデレーター: 栗原 潤

講師紹介

榎田健児氏の略歴等

<http://www.kenjikushida.com/>

所属：

スタンフォード大学アジア太平洋研究所日本研究プログラム リサーチアソシエート

Stanford Silicon Valley - New Japan Project プロジェクトリーダー

キャノングローバル戦略研究所 International Research Fellow

学歴：

2001年6月 スタンフォード大学：経済学部、東アジア研究学部卒業（学士）

2003年6月 スタンフォード大学：東アジア研究部、修士課程修了（修士）

2010年8月 カリフォルニア大学バークレー：政治学部、博士課程修了（博士）

職歴・著書：

2010年9月 スタンフォード大学アジア太平洋研究所ポस्टドクトラル フェロー（～2011年7月）

2011年8月 スタンフォード大学アジア太平洋研究所日本研究プログラムリサーチアソシエート

Stanford Silicon Valley - New JapanProject プロジェクトリーダー

2016年1月 キャノングローバル戦略研究所 International Research Fellow

東京のインターナショナルスクールを経てスタンフォード大学で経済学と東アジア研究を専攻、カリフォルニア大学バークレーで政治学博士を修得後、現職に就く。

情報通信やクラウド、政治経済分析を中心に研究。

日本向けの一般書は『バイカルチャーと日本人—英語力プラス α を探る』（中公新書ラクレ）、『インターナショナルスクールの世界』（扶桑社、キンドル電子書籍）など。